西比利亞の河川と北極海との連絡航路（上）

文學士　內田寬一

一

今次の世界大戰亂の影響により、露西亞に於て白海海岸のアルハンゲル（Archangel）やムルマン（Murman）海岸のエカテリナ（Ekaterina）アレキサンドロフスク（Alexandrovsk）等の港が、陸には鐵道によりて露國中部の鐵道幹線に連絡し、海には北極海經由歐洲大西洋方面行の航路に連絡するなど、北極海方面は交通上俄に活氣を呈したが西比利亞に於ても之と同じく、北極海方面に航路を開き、河川航路と相俟つて、西比利亞の產業と歐洲大西洋方面の諸港とを連絡せしめんとする運動が勃興して、近時北極海方面が世人の注意を惹くに至つたのである。西比利亞の北極海方面にはオブ（Ob）エニセイ（Yenisei）レナ（Lena）の大河を始めとして數多の河川が網狀に發達してゐる。いづれも其の流れ穩かにして、水量多く、自然の水路をなして本流は概ね南から北に流れ、殊に叙上の三大河は西比利亞を南北に縱貫してゐる。されば北極海に航路を開き是等大河の水路を利用して歐洲と西比利亞內地とを連絡せしめんとは古くから計劃せられたることであつて、今次の戰亂に際し突如として現はれたるものではない。

叙上三大河の中、オブ・エニセイ兩河の方面が近時主として此の問題に上つてゐるから、此にも主として是等兩河の水路の發達を見、更に其等の河口に至る海路の發達を見て、兩者連絡の概略を述

べる。

二

西比利亞の如く土地が尨大で、人煙が稀薄なる處に於て、中央集權の實を擧げ、軍事上此の地を安定の地位に置き、拓殖開發の進歩を計らんとするには、交通の便宜を必要と感ずるのはいふまでもない。露西亞政府にありても、主として政治軍事の見地より、いかにして本國と西比利亞との交通連絡を付くべきかに就いて夙に注意を拂つてゐた。さりながら、西比利亞の自然人文の狀態を以て見れば、此所に新に交通路を開通するのは容易の業でない。それ故に陸地といはず、河川といはず、海洋といはず、自然の交通路を探索して之を利用しようとは、露西亞政府當局者が齊しく希望したる所であつた。中にもオブ河エニセイ河はレナ河黑龍江等と共に露西亞人の侵入以前より既に相當に交通路として利用せられてゐたので、露西亞政府も逸早く其の利用に努めた結果、西比利亞南部を灌漑するオブ。エニセイ。レナ等諸河の上流及び黑龍江に於ける水運は漸次發達して、其等流域の開發上に少からず貢獻した。殊に一八六〇年露西亞がウスリー(Ussuri)河以東の地を獲得しやがて浦潮斯德の地を卜して一大港市を設計し、之を露西亞東方の門戸となし、又此の門戸を通じて西比利亞東部の殖民開發を計畫するに及び、露西亞本國と西比利亞の日本海海岸地方とを連絡する交通路の必要を感ずること切なるものがあつた此の故に一方に於て今の西比利亞幹線鐵道に沿へる郵便道路を開通すると共に、エニセイ河の一支流なるカス河とオブ河の一支流たるケト河との連絡運河の開鑿を始めた。此の開鑿工事は一千八百八十三年より一千八百九十四年に至る十二ヶ年を要し、西比利亞鐵道が起工せられてから三年の後に竣工したのであるが、之によつてイルクーツク

(Irkutsk)市からアンガラ(Angara)河を經てエニセイ河本流に出で、それよりカス河河系、連絡運河、ケト(Ket)河河系を經て、オブ河本流に出で更に其の支流なるイルチシュ(Irtysh)河トボール(Tobol)河を通じて、ツラ(Tura)河河畔のチユメン(Tiumen)市に達し、此所より鐵道にてモスコー(Moscow)市に至る交通系が一貫することゝなつたのである。

西比利亞鐵道の開通すると共に、オブ、エニセイ兩河の連絡交通は衰頽したけれども、オブ河本流の上流及び支流のイルチシュ河やエニセイ河本流の上流など、西比利亞南部に於ける南北の河川路は、幹線鐵道との連絡によりて寧ろ益々船舶の交通頻繁となり、其の流域は幹線鐵道開通以來急激に增加せる移入民によりて、農業牧畜頗に發達し、畜産物農産物を原料とする諸種の工業も勃興して、西比利亞寶庫の名に辱ぢざる盛況を呈して來た。殊に黑土地方の小麥・バタ・麻等は大いに露西亞本國及び歐洲西部諸國に搬出せられ、獸皮、獸脂、羊毛等も主としてシベリヤ中部以北に產する毛皮と共に歐洲に向けらるゝ額が少くない。而して歐洲よりは農具及び其の他諸器械・衣服・雜貨等が盛に此の地方に入込んでゐる。隨つて水路の外今やオブ河流域ではアルタイ鐵道、エニセイ河流域ではミヌシンスク(Minusinsk)鐵道など西比利亞鐵道の支線と見らるべき經濟本位の交通路も開通するに至つたが、水路は運賃低廉なるが故に優に鐵道と對抗して大いに交通產業に盡してゐる

オブ・エニセイ、兩河の水路は叙上の上流地方に止まらず。トムスク市にあるオブ・エニセイ兩河の河系沿岸の各所にある水量測候所の調査は大いに進捗し、是等の河系全部に亘つて水路の概況は明にせられ、又浚渫の事業も進みて安全航路が一貫しつゝある。

三

一九〇六年の調査によれば、オブ河河系にては其の本流とイルチシュ以下主要なる支流とを合計せる延長は約二萬九千餘露里（一露は我が九町四十六間五尺）にして、其の中全く交通の便なきは約四千八百露里に過ぎず、汽船の可航距離だけでも約一萬四千五百數十露里と算せられてゐる。而して本流は上流のビイスク（Biisk）市より河口に至るまで約三千二百六十露里は汽船と通じ、下流約二千露里は洋航汽船をも通し得るのである。イルチシュ河の如きは露支國境を越えて更に蒙古までも汽船を通じ得るが、國境を境として計算してもオブ河河口に至るまで三千五百餘露里に上るのである。

オブ河河系の船舶を見るに、一九一〇年の調査によれば、汽船の總數百九十一、荷船の總數四百九十にして、汽船の最大なるものは積載貨物量五萬布度（一布度は我が四貫三百六十八匁）乘客五百荷船の最大なるものは積載量五萬五千布度である叙上汽船及び荷船の大多數はイルチシュ河の合流點より上、本流及びイルチシュ河を交通してゐる本流に於ては、ビースク市より西比利亞鐵道との會合點たるノヴオニコライエフスク（Novonikolaevsk）市まで六百八十露里の間が最も交通頻繁で、一九一〇年ビイスク・バルナウル（Barnaul）兩市間では輸出入貨物一千九百萬布度、バルナウル・ノヴオニコライエフスク兩市間は二千三百萬布度、總計四千二百萬布度を算してゐる。併しノヴオニコライエフスク市以下にありては、沿岸地方の地味肥沃ならず、森林多くして、都邑が少いから、貨物の出入も比較的少い。イルチシュ河に於ては、トボルスク（Tobolsk）チユメン兩市間、オムスク市より河上五百八十露里間、セミパラチンスク市（Semipalatinsk）サイサン（Saisan）湖間が比較的交

通便利である。イルチシユ河合流點以下は沿岸の地方が住民少く、開發進まずして貨物の出入甚だ少い。隨つて現今船舶の交通するもの稀であるが交通不振の他の一大原因は北極海航路との連絡の乏しき點にあつて、河道其のものは幅が廣く水量は多く、交通上の難所は上流に比して甚だ少いから、北極海との連絡航路を開かんとする者の却つて有利なる部分と目する所である。又交通頻繁とならば、此の地方の開發も爲に進歩すべきは勿論である。但下流地方は其の後者地が上流中流に比して不利である外、其の地理上の位置が北に偏せる故に、船舶交通の期間が上流に比して短いといふう事もある。オブ河沿岸各地の水量測候所が建設せられて以來、或は三十年或は十數年間の平均可航期間は、ビイスク。バルナウル兩市間は四月下旬より十一月上旬に至る百八十五日、バルナウル。ノヴオニコライエフスク兩市間は四月下旬より十月下旬に至る百七十四日、イヴオニコライエフスク市トム河の合流點間は五月上旬より十月下旬に至る百七十三日、トム河合點。イルチシユ合流點間百六十五日、以下河口までは百六十日未滿で、上流より下流に至るに隨ひ、漸時其の數を減じ、バルナウル市附近と河口附近とに於ては二十數日乃至三十日の差が現はれてゐる。

四

轉じてエニセイ河を見るに、一九一〇年の調査によれば、本流はミヌシンスク市以下河口に至るまで約二千六百余露里間は汽船を通ずべく、エニセイスク市以下は洋航汽船をも通じ得る。隨つてオブ河に比して交通は一層便利であるけれども、其の沿岸地方の開發が一般にオブ河河系に比して後れてゐるし、近時開發大いに進めるクラスノヤルスク（Krasnoyarsk）ミヌシンスク兩市間に於ては交通上の難所が多いので、實際の交通はオブ河

の如く盛でない。一九一〇年の調査によれば、汽船三十五、荷船百三で、汽船の最大なるは、貨物積載量一萬二千布度乘客三百のもので其の他もオブ河のものより一般に小さい。運輸貨物も隨つて少なく、一九一〇年にはクラスノヤルスク市にて約一千萬布度、ミヌシンスクにて約二百五十萬布度、クラスノヤルスク、エニセイスク(Yeniseisk)兩市間で百五十萬布度、總計一千四百萬布度で汽船と荷船及筏の運輸量は略相伍してゐる。エニセイスク市以下に於ては深林又は平原多く隨つて交通運輸も微々として未だ大いに振はない。

併しミヌシンスク平野を始めとしてエニセイ河上流流域に於ては近時移住民續々入來し、農業牧畜益々盛運に向ひ、其の生産額は急速に增加してゐるのみならず、エニセイスク附近にも地味肥沃の平野が人の來住開拓を待つもの甚だ多いから、産業上大いに將來に望を嘱せられてゐる。露國政府が從來エニセイ河河航を奬勵せるも之の爲で、北極海航路との連絡が付けばエニセイ河河筋の交通産業の發達は蓋し大いに見るべきものがあらう殊に下流のツルハンスク(Turchansk)地方には近時水産、烏毛、毛皮の産出が多いから、エニセイスク方面との河航が盛となると共に海路より此の地に至るものもある。又露國政府は海路外國品の無税輸入の件も研究して居り、海路の發達を奬勵してゐる。

エニセイ河の可航期間は概ね五月上旬より十月下旬までの間に於て上流は百七十日下流は約百五十日内外である。